

2017年(平成29年)5月4日(木曜日)

素 研 水 状 子 分
臨 床 工 学 研 究 会

水素分野の最新情報発信

MIZ “ニセ科学騒動”要因を分析
平野氏

水素分野の最新研究な
どをメディア向けに紹介
する「一般社団法人分子
状水素臨床工学研究会主
催・メディアワークショップ

「水素医学研究の現状と
展望」と題し、講演を行
った。

「心停止後症候群」に対
する水素ガス吸入療法の
臨床研究が先進医療Bと
して承認されているの
で、水素の医療利用研究
は着実に進展していると

「水素の医療分野における
研究の歴史について概説
し、これまでに27報のヒ
ト臨床試験と約350報
の動物試験の原著論文が
報告されていると紹介し
た。また、同氏は27報の
ヒト臨床試験の中で特に
エビデンスレベルの高い
二重盲検法を使った臨床
試験は10報あり、さらに
昨年末に慶應義塾大病

院が厚労省に申請した
臨床研究が先進医療Bと
して承認されているの
で、水素の医療利用研究
は着実に進展していると

述べた。その一方で、健
常人を対象とした臨床試
験の多くは、アスリート
のパフォーマンス向上に
関する内容が大半で、ト
クホや機能的表示食品が
対象とするいわゆる「未
病」にフォーカスした内
容が少ないと指摘。その
上で、昨年、水素水を巡

この中で、20年以上に
わたって水素分子の医療
利用に関する研究開発を
手がけるMIZ(株)
(本社・神奈川県鎌倉市、
佐藤文武社長)の常務取
締役研究開発担当・獣医

平野氏は講演の中で、
水素の医療分野における
研究の歴史について概説
し、これまでに27報のヒ
ト臨床試験と約350報
の動物試験の原著論文が
報告されていると紹介し
た。また、同氏は27報の
ヒト臨床試験の中で特に
エビデンスレベルの高い
二重盲検法を使った臨床
試験は10報あり、さらに
昨年末に慶應義塾大学病

院が厚労省に申請した
臨床研究が先進医療Bと
して承認されているの
で、水素の医療利用研究
は着実に進展していると

って「ニセ科学論争」が
一部メディアを中心に着
き起こったが、その背景
には、300億円市場と
も言われる水素水市場で
は、約100の水素水メ
ーカーが乱立して玉石混
交の状態にあることや、
不適切な効能・効果表現
がWebなどで謳われて
いること、さらに、健常
人に対する臨床試験論文
の少なさなどがあると述
べた。

平野氏は、水素分野の
現状を4つのカテゴリー
に分けて分析し、①食品
分野のプラス要因(機能
性表示食品としての届出
を準備中、食品添加物と
して登録)、②医療分野
のプラス要因(慶應義塾
大病院で先進医療Bと
して臨床研究開始、約5

00報の論文発表、27報
の臨床試験論文発表、医
薬品・医療機器として開
発計画、水素に理解を示
す医師が増加傾向)、③
食品分野のマイナス要因
(健常人に対する臨床試
験論文の少なさ、水素水
市場の玉石混交状態、W
ebなどでの効能効果掲
載、水素に精通していな
い学者へのメディア取
材、国立健康・栄養研
究センターなど)、④
医療分野のマイナス要因
(水素に理解を示さない
一部の医師や製薬会社)
——に分類し、解説した。

昨年、「ニセ科学論争」
の要因は、食品分野のマ
イナス要因ばかりがメデ
ィアに取り上げられた一
方で、確実に進んでいる
医療分野のプラス要因な

どは注目されず、水素分
野の一部が抽出されてし
まったことが原因である
と言及。今回のメディア
ワークショップをはじめ
め、適切な情報発信の必
要性を訴えた。

ワークショップではこ
のほか、「心停止後症候
群の治療」(演者・佐野
元昭氏)慶應義塾大学病
院循環器内科)、「肝移
植への応用」(同・秦浩
一郎氏)京都大学病院肝
胆膵・移植外科)、「パ
ーキンソン病の治療」
(同・頼高朝子氏)順天
堂越谷病院神経内科)
——をテーマとした講演
が催され、水素の医療分
野における最新研究が紹
介された。